

2025年度 町田市立三輪小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標 憲法・教育基本法の精神に基づき平和的な社会の形成者として、心身共に健やかな三輪小の子どもを育てる。 ◎たくましい子ども ◎考え深い子ども ◎心の豊かな子ども	学校経営の重点 (1)デジタル教材を活用したこれからの学び推進 (2)地域人材・豊かな自然を活用したふるさと教育の充実
○目指す学校像……「子供の未来をひらく学校」互いに関わり、認め合い、高め合いながら、未来を切り拓く基礎作りをしていくことのできる調和のとれた学校 ○目指す児童・生徒像……「みんな仲良し三輪の仲間」自分の良さを見出し、自分も友達も大切にすること ○目指す教師像……一人ひとりの子供たちの力を伸ばす指導力の向上	重点目標の成果と課題 ＜成果＞デジタルの活用、地域連携やふるさと教育について、保護者から極めて高い信頼と満足度を得ることができた。児童の学習に関する達成感も高い。 ＜課題＞「個別」と「協働」をつなぐ授業デザインを創ることができ教員の育成が必要である。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を活性化させる。	ふるさと教育をカリキュラム・マネジメントの観点から見直しを行い、地域と連携した教育活動を効果的に実施する。 保護者や地域協力者によるふるさと教育活動の参加を増やす工夫をする。	4 年間指導計画に設定した地域と連携した教育活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域と連携した教育活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域と連携した教育活動の70%以上を実施 1 年間指導計画に設定した地域と連携した教育活動の実施が70%未満 4 年間6回以上参加の場を設定 3 年間5回以上参加の場を設定 2 年間4回以上参加の場を設定 1 年間4回未満参加の場を設定	3.4	B	A 保護者向けアンケート(1)ア③「地域人材を活用した教育活動」肯定的評価 80%以上 B 保護者向けアンケート(1)ア③「地域人材を活用した教育活動」肯定的評価 70%以上 C 保護者向けアンケート(1)ア③「地域人材を活用した教育活動」肯定的評価 60%以上 D 保護者向けアンケート(1)ア③「地域人材を活用した教育活動」肯定的評価 60%未満	92.3	A	高い評価が得られ、「家庭・地域社会との共有・連携」が、単なるスローガンに留まらず、具体的な活動として結実している。特に、みわサボ(保護者ボランティア)を地域学習の際には必ず募集し、教育活動を行ったため、「見るだけ」の行事から、「共に創る」教育活動への転換に成功したと言える。	HPによる情報配信については、給食や教育活動の様子をほぼ毎日のように更新してきた。管理職、教務主任、栄養士だけでなく、教務分掌に担当者を増やし、教職員の情報発信が増え、保護者にとって必要な情報が探しにくいという声もあり、配信の際には、工夫が必要である。また、行事ごとのアンケート結果がその後の改善にどう生かされたかというフィードバックを行い、回答へのモチベーションを高めていく。	HPやtetoruなどを活用した「ふるさと教育」の取組などの情報発信は、「ふるさと教育」の保護者への理解につながり、成果を上げていると考えられる。しかし、教職員の意識には少し差があり、それを変えていくためには、HPなどの情報発信に教職員がより一層関わって必要である。また、保護者にも自分たちが「ふるさと教育」に関わることの意義や成果が実感できるようになっていく。	B
		積極的な情報発信と情報収集を通して、教育活動への理解を求める。	ホームページに保護者が必要な情報を掲載するとともに、Tetoruでの情報配信を行う。 ボランティアの募集、行事アンケート、学校評価などにおいてフォームを使用する。	4 週3回以上の更新 3 週2回以上の更新 2 週1回以上の更新 1 週1回以上の更新 4 意見収集の90%以上で実施 3 意見収集の80%以上で実施 2 意見収集の70%以上で実施 1 意見収集の70%未満で実施	1.35	D	A 保護者アンケート(1)ア②「情報発信」肯定的評価 90%以上 B 保護者アンケート(1)ア②「情報発信」肯定的評価 80%以上 C 保護者アンケート(1)ア②「情報発信」肯定的評価 70%以上 D 保護者アンケート(1)ア②「情報発信」肯定的評価 70%未満	85.6	A				
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改善改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得させる。	全学年で、算数において、少人数指導またはIT指導体制を実施する。 学習アプリを授業や家庭学習に取り入れ、個に応じた学習を行う。	4 90%以上の単元で実施 3 90%以上の単元で実施 2 90%以上の単元で実施 1 90%以上の単元で実施 4 週4回以上の実施 3 週3回以上の実施 2 週2回以上の実施 1 週1回以上の実施	3.3	B	A 保護者アンケート「I」①「基礎的・基本的な事柄の定着」肯定的評価 80%以上 B 保護者アンケート「I」①「基礎的・基本的な事柄の定着」肯定的評価 70%以上 C 保護者アンケート「I」①「基礎的・基本的な事柄の定着」肯定的評価 60%以上 D 保護者アンケート「I」①「基礎的・基本的な事柄の定着」肯定的評価 60%未満	76	B	子どもたちの学習意欲やデジタル活用への手応えと教員・保護者の実感との間に若干のギャップがある。デジタルを使うこと自体はできているものの、個に応じた学び(個別最適)と協働的な学びを一体的に機能させ、学力向上に結びつけているかという点において、教員がまだ自信を持ちきれない、あるいは指導の難しさを感じている。	教職員の指導力やデジタルを活用した指導法について、校内研究をさらに活性化させ、研修を工夫していく。授業の中で、学んだ内容を友達に説明する機会を増やしたり、授業の終わりに「何ができるようになったか」を言語化する時間を確保したりするなど、思考力・表現力の育成の重要性を児童や教員に実感させる。	児童が主体的、対話的に学びを進めていく授業やデジタルを活用した指導を取り入れた授業改善について共通理解を始めた段階であり、教員の指導の進め方にも、まだ課題や差もあると考える。今の教育に求められることから、児童が受け身の授業から、自分の考えを積極的に発信し協働的に学びを深めていくような授業を行う方向性を図る校内研究の充実や、効果的な指導法	B
		学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	デジタルを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進する。 友達との意見交換の場を設け、思考を深めたり広げたりする授業を実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施 4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	2.65	C	A 教員アンケート「デジタルを活用した学びの推進」肯定的評価 80%以上 B 教員アンケート「デジタルを活用した学びの推進」肯定的評価 70%以上 C 教員アンケート「デジタルを活用した学びの推進」肯定的評価 60%以上 D 教員アンケート「デジタルを活用した学びの推進」肯定的評価 60%未満	76.5	B				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	他人を思いやる心、規範意識等を育む。	児童とともに見直した学校のきまりを児童や保護者に周知し、遵守させる。 いじめの早期発見・早期解決のための生活指導や道徳教育を実施する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施 4 いじめ防止の指導や授業を月に1回以上指導実施 3 いじめ防止の指導や授業を学期に2回以上指導実施 2 いじめ防止の指導や授業を学期に1回以上指導実施 1 いじめ防止の指導や授業を年に2回以上実施	3.3	B	A 保護者アンケート(1)ウ②「決まりの遵守」肯定的評価 90%以上 B 保護者アンケート(1)ウ②「決まりの遵守」肯定的評価 80%以上 C 保護者アンケート(1)ウ②「決まりの遵守」肯定的評価 70%以上 D 保護者アンケート(1)ウ②「決まりの遵守」肯定的評価 70%未満	75.5	B	多様性の尊重や他者を大切にするという目標に対し、ルールや活動が形式的になっていく傾向がある。学校のきまりを一緒に決めるプロセスはあったものの、その後の運用において、児童が自分たちで決めてから守ろうという自主意識を持ち続けるまでの落とし込みができていない。また、いじめに関しては、表面化していない小さなトラブルや、心のケアに対する可能性が大きい。	決めるから振り返るまで児童による自治活動を推進する。ルールを一度見直し終わりでではなく、そのルールが機能しているかを児童が評価する仕組みを作っていく。また、たてわり班や委員会、高学年だけでなく低学年にも「自分が必要とされている」と感じる役割を与え、相手とのつながりを感じるプラスの交流特別活動を推進する。	日常的に行っている思いやり心を育てたり多様性を認めたりする指導がいじめ防止に繋がることを教職員が共通理解するとともに、日頃の授業においても意識する必要がある。また、見直したルールが本当に浸透するためには、ルールに基づいて児童一人一人が自分なりにあてをもち行動し、ふり返りの場を設けて自覚を促すことも大事である。授業や特別活動、生活などの場で具体	B
		人との関わりを通して、自分の周りの人を大切にしようとする態度を養う。	特別活動(委員会、クラブ、たてわり班活動など)における児童の主体的な活動を重視する。 クラスごとのあいさつ運動の実施、地域の方による声かけを通して、すすんで挨拶する態度の育成を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施 4 食習慣・生活習慣に関する指導を月に1回以上指導実施 3 食習慣・生活習慣に関する指導を学期に2回以上指導実施 2 食習慣・生活習慣に関する指導を学期に1回以上指導実施 1 食習慣・生活習慣に関する指導を年に2回以上実施	3.55	A	A 児童アンケート「特別活動における主体的な活動」肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート「特別活動における主体的な活動」肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート「特別活動における主体的な活動」肯定的評価 60%以上 D 児童アンケート「特別活動における主体的な活動」肯定的評価 60%未満	86.8	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実させる。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	縄跳びやマラソンのワークシートを作成・活用し、児童の運動の意欲を高める。 生活科、総合的な学習の時間、家庭科、給食指導において、食習慣、生活習慣について学習する機会をもつ。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施 4 食習慣・生活習慣に関する指導を月に1回以上指導実施 3 食習慣・生活習慣に関する指導を学期に2回以上指導実施 2 食習慣・生活習慣に関する指導を学期に1回以上指導実施 1 食習慣・生活習慣に関する指導を年に2回以上実施	3.65	A	A 保護者アンケート(1)エ①「積極的な運動」肯定的評価 80%以上 B 保護者アンケート(1)エ①「積極的な運動」肯定的評価 70%以上 C 保護者アンケート(1)エ①「積極的な運動」肯定的評価 60%以上 D 保護者アンケート(1)エ①「積極的な運動」肯定的評価 60%未満	75.1	B	児童も教職員も命を守るという意識が高いが、日々の地道な生活習慣・食については、指導の効果が家庭に伝わりきっていない、あるいは実生活に結びついていない可能性がある。教科横断的(生活・総合・家庭・給食)に行われているため、学びが点で終わり、学校としての線になっていない。学校での学びが家庭の食卓や就寝時間などの実践にまで影響を及ぼせていない可能性がある。	望ましい食育・生活習慣の見える化と家庭巻き込んでいく仕組みが必要である。学校での学びを家で実践につなげる仕組みを考え、実践していく。HPやtetoru等で、給食のレシピや家庭でできる食習慣のアドバイスを写真付きで配信し、学習内容を可視化する。保護者が学校で何を学んでいるのかが分かるようにする。	食育については、一定の取組はあるものの、他の内容と比べて主体的な取組として意識されなかったり、成果を上げていないという実感が十分でなかったりしている。HPやtetoruなどによる給食や食育の情報発信を積極的に行うとともに、栄養士とも連携し、給食指導や総合的な学習の時間において、給食の食材や食に関する関心を高める情報提供や指導を行う必要がある。	B
		心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する。	地域との連携も取り入れた避難訓練を実施し、日々の防災についての意識を高める。 交通安全や不審者対応について、全校、学年、学級で計画的に指導を行う。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施 4 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 80%以上 3 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 60%以上 1 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 60%未満	3.3	B	A 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 80%以上 B 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 70%以上 C 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 60%以上 D 保護者アンケート「防災に対する意識」肯定的評価 60%未満	96.3	A				
その他				4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.75	A	A 保護者アンケート(1)ウ④「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 保護者アンケート(1)ウ④「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 保護者アンケート(1)ウ④「安全意識」肯定的評価 60%以上 D 保護者アンケート(1)ウ④「安全意識」肯定的評価 60%未満	75.5	B				

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A 成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B 成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C 成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D	A ⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B ⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C ⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D ⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。